

ありがとうの気持ちをかめて

水戸市立吉田小学校 五年 中村 結菜

うわあ。さけび声と共に、私の足は田ん

ぼのぬかるみの中へとはまっ

二年前の五月、私は母といっしよに、祖父の

田んぼの田植えを手伝いました。祖父の田の

面積はとても広く、大部分の所は祖父が機械

でなえを植えました。が、機械ではなえがぬけ

てしまふ部分があり、なえとなえとの間かく

が等しくながない部分が出来てしまいます。

そのうめきれなかつたスペースを私たちがう

めるのです。数日前から私はその日を心待ち

にしています。初めて田植え、きつと

楽しいだろうなあ。そんな気持ちでいっはい

でした。しかし、。

実際にやってみると、私の長ぐつは一歩進

むのもやっとなで、思うように足が動かず、私

はその場で立ちおうじょうしてしまいました。

っ、進まないんだけどうすれば

いいの？ 私



私が祖父に向かっ

て聞くと、

「大丈夫だ。そのうちなれっぺい。」

とのんびりした声か返ってききました。ふと母

を見るのと、母も必死で前に進もうとしていま

見たが、足をぬかるみにとられ、私と同じよ

うなじょうきょうでした。母の必死な様子を

見ていると、思わず笑ってしまいそうになり

ました。が、ふと我に返ると、とても笑えるじ

ょうきょうではありませんでした。かんぱつ

てどのの中をつき進もうとししました。が、とう

とう私はしりもちをついてしまい、どろまみ

れになつてしまいました。もうこうなつたり

こわいものなしです。そこから、もう転ん

で、ちやうど「あんなに」気分が、ずんずん

歩けるようになりまし

た。

祖父が田んぼのすみにおいたなえのかたま

りかかなえを十本ぐらい取り、機械で植え

きれなかつたスペースになえを植えつけていき

ました。こしを曲けると、足がぶぶぶとど

ろの中はまわっていたり、なえをどのくら

い

い



